



岐阜の児童文学座談会

岐阜に咲いた児童文学

2018. 2.3 SAT

14:00 ~ 15:30

昭和47年から平成6年の21年間、子どもと親と教師と児童文学作家が守り育てた雑誌があった。



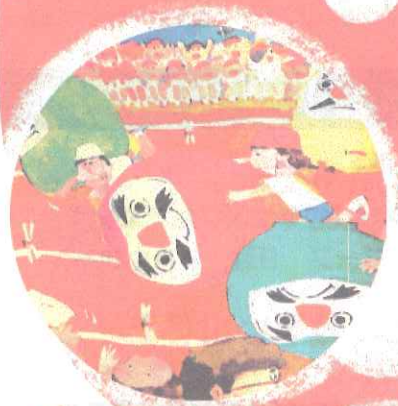
雑誌

コボたちに 集まった人々



詩『「コボたち」よ』岸武雄 より抜粋

コボたちよ！
わたしたちの書くお話を、
読み、考え、そして乗りこえて、
力強く未来にはばたいてくれ。
コボたちよ！



GUESTS

- いずみ 凜さん (舞台脚本家)
- 稲垣 和秋さん (岐阜児童文学研究会会長)
- 角田 茉瑳子さん (児童文学作家)
- 河村 たか子さん (フリーアナウンサー)
- 聞き手 吉成 信夫 (岐阜市立図書館館長)

みんなの森 ぎふメディアコスモス 2階 中央図書館 南東読書スペース
 申込み：岐阜市立中央図書館 TEL/058-262-2924 E-mail/fb-kouhou@gifu-lib.jp
 定員：50名 (事前申込・先着順)



岐阜の児童文学座談会 岐阜に咲いた児童文学

雑誌 **コボたち** に集まった人々

昭和47年から平成6年の21年間にわたり発刊された岐阜の児童文学雑誌「コボたち」。
ここから生まれた多くの文学や文化活動に焦点をあて、さまざまな立場で携わった方たちから話をお聞きし、
岐阜に咲いた児童文学を巡る座談会を行います。

いずみ 凜

岐阜県出身。大学在学中、演劇活動を開始。中国に留学後、編集者として「コボたち」編集室に在職。その間に執筆したNHKのラジオドラマをきっかけに脚本家としての活動を開始。岐阜の劇団はぐるま、東京演劇アンサンブルを経てフリーとなる。現在上演中の作品は劇団銅鑼『ハンナのかばん』、劇団はぐるま『夜空の下に降る花は』など多数。脚本執筆以外に、大学や劇作講座の講師を務める。また、舞台を観た後みんな語り合うゲキミテーク（批評対話）を推進し、各地でコーディネーターを務める。○夫人児童青少年演劇賞受賞。

舞台脚本家



岐阜児童文学
研究会会長



稲垣 和秋

愛知県に生まれる。
岐阜大学国語国文学科卒、上越教育大学大学院修了。
奈良女子大学附属小学校教官をへて現在岐阜聖徳学園大学短期大学部に勤務。
日本現代詩人会員、全国大学国語教育学会会員、日本児童文学者協会会員、岐阜児童文学研究会会長、詩誌『レトル』主宰。
共編著に『文学教材の授業選集』（明治図書）『三社ものがたり』（岐阜教育文化事業団）。詩集に『さようなら帰らぬ日々よ』などがあつる。

角田 菜瑳子

岐阜市生まれ、現名古屋国立大学卒業。岐阜県に関わる歴史・文化を題材にした作品を、取材・調査に基づき数多く発表。昭和61年発表の「ゆきと弥助一紙すきのうた」は日本児童文芸新人賞・岩崎少年少女歴史小説賞を受賞。創作音楽劇として上演され高い講評を得る。平成26年、文化庁・文部科学省 文部科学大臣 地域文化功労者表彰。その他作詞や書評など創作活動の一方、岐阜県文芸祭専門委員会・岐阜県美術振興会評議員を務めるなど地域の文化振興発展と後進の育成指導に大きく貢献している。

児童文学作家



フリー
アナウンサー



河村 たか子

岐阜市出身。フリーアナウンサー。元岐阜放送（現ぎふチャン）アナウンサー。40年間、ラジオ・テレビのニュースや番組を担当。現在は東海学園大学非常勤講師（音声表現）を務める。楽しい群読「ほっこり」代表。カルチャーアカデミー岐阜新聞・ぎふチャン マーサ教室「楽しい群読・声に出してリフレッシュ」、岐阜・各務原・大垣「朗読・群読講座」「小学校音読・話し方」講師。岐阜児童文学研究会会員。「すてきにコミュニケーション」、「群読ワークショップ」などの講演も行なっている。

聞き手 吉成 信夫

岐阜市立図書館館長

コンサルティング会社役員などを経て、家族で岩手に移住。石と賢治のミュージアム研究専門員を経て、「森と風のがっこう」を開校。2003年、岩手県立児童館「いわて子どもの森」館長を兼任。2015年、岐阜市立図書館館長に就任。
スナフキンとカフェと旅が好き。



展示予告

岐阜の児童文学展「岐阜に咲いた児童文学」
場所：展示グローブ 日程：2月中旬～

コボたちの思い出募集

「わたしとコボたち」というテーマで、コボたちの思い出やエピソードを100字程度で募集中。

キリトリ

岐阜に咲いた児童文学 雑誌コボたちに集まった人々

申込書

ふりがな
氏名

電話番号